

今般其府下ニ於テ土木寮分局ヲ置キ澱川流域ニ關スル事務ヲ取扱候
條此旨相達候事

各通

京	都	府
兵	庫	縣
奈	良	縣
堺		縣
滋	賀	縣
三	重	縣

今般大阪府下ニ土木寮分局ヲ置キ澱川流域ニ關スル事務ヲ取扱候條
此旨相達候事

故少判事從六位杉浦知周

御一新以來引續奉職勉勵候ニ付爲祭資料別紙目錄之通下賜候事

目錄金三百五拾圓

○五月二十九日

〔達書〕

内務省

遠江國敷知郡濱松驛へ電信局設置候ニ付右敷地トシテ同所字傳馬町
舊傳馬所趾九拾五坪四合工部省官用地ニ組入同省へ渡方可取計此旨
相達候事

○大藏省

遠江國敷知郡濱松驛へ電信局設置候ニ付右敷地トシテ同所字傳馬町
舊傳馬所趾九拾五坪四合工部省官用地ニ組入同省へ渡方可取計椽内
務省へ相達候條此旨可相心得事

〔第八拾九號達書〕

府

縣

使部仕丁へ是マテ各廳適宜ノ俸ヲ支給シ來候向モ有之趣ニ候處右ハ
來ル七月一日ヨリ定規ノ通等外二等ノ月俸ニ可引直尤即今難引直事
故有之向ハ雇ノ名義ヲ以テ其事務爲取扱俸給ノ儀ハ使部仕丁定員月
給金額ノ内ヨリ適宜支給可致此旨相達候事

但雇ノ名義ニ引直シ候向本文日限迄ニテ滿壹箇年以上勤續ノ者ハ
相當ノ賜金可取計事

〔第九拾號達書〕

輪廓附

院

省

使

廳

府

縣

租税金大藏省へ納付ノ儀地方ノ遠近ニ不拘一樣ノ期限ニ候處自今管
廳收入ノ期日後十五日以内ヲ限リ該地出發同省へ送達可致付テハ從
前ノ諸規則中ニ掲載有之納期モ都テ同様可相心得此旨相達候事

〔第九拾壹號達書〕

輪廓附

府

縣

縣治條例中左ノ通追加候條此旨相達候事

縣治事務章程

下款

第二十一條

徵兵令ニ準シ賦兵ヲ調査スル事

陸

軍

省

縣治事務章程中へ徵兵條款追加之儀別紙第九拾壹號之通府縣へ相達
候條爲心得此旨相達候事
別紙載テ前ニア
レハ之ヲ畧ス

〔第九拾貳號達書〕

輪廓附

使

府

縣

閏刑禁獄ノ罪囚賄料是迄自費ニ候處來ル六月一日ヨリ本年一月第一號

六十五
六十六
六十七

達書囚人給與規則輕役者ノ給額ニ準シ官費ヲ以テ支給可致此旨相達
候事

○

任三等判事

正五位

楠田

英世

補七等出仕

正七位

秋月

胤永

○正誤

本年日誌第五拾五號中ニ海軍中尉柴原矢八トアル柴原ハ柴山ノ誤ナ

太政官日誌明治八年第七十二號

○五月三十日

〔第九拾六號布告〕輪廓附

明治六年^{十一月}第三百七十號ヲ以テ秘魯國ト假條約御取結相成候旨布告候處今般本條約交換相成候條此旨布告候事

○五月三十一日

〔達書〕

東京警視廳

巡查懲罰例附錄左之通相定候條此旨相達候事

巡查懲罰例附錄

第一條 練兵ノ規則ヲ犯シ及ヒ上官ノ教令ニ違フ者ハ二十五日以下ノ苦使ニ處ス

第二條 練兵時限ニ違ヒ又ハ故ナク練兵ニ出場セサル者ハ十日以下ノ苦使ニ處シ偽病ニ係ル者ハ十五日ノ苦使ニ處ス

第三條 銃器并附屬諸具ノ拂拭ヲ怠ル者ハ三日以下ノ苦使ニ處ス
第四條 銃器并附屬諸具ヲ遺失シ或ハ破毀スル者ハ本例第十五條

ニ據ル

○

司 法 省

巡查懲罰例附錄左之通相定候條此旨爲心得相達候事巡查懲罰例附錄略之

〔第九拾七號布告〕

今般地方官會議所ノ儀ハ府下淺草東本願寺ヲ以テ假ニ議院ト被定候此旨布告候事

〔第九拾八號布告〕輪廓附

海軍官船ヲ除ノ外西洋形船へ賊難防禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨布告候事

第一條 海軍官船ヲ除ノ外諸省使府縣所轄ノ西洋形官船并ニ人民所持ノ西洋形商船へ大砲口径四寸以內二門小銃三拾挺設備スル事苦シカラス

但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲クル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ増置セントスルキハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 大砲一門ニ彈藥五拾發小銃一挺ニ同百發ヲ越ユヘカラス
第三條 船内へ銃砲ヲ設備スル時省使ハ正院へ上請シ府縣ハ内務省へ申出許可ヲ受クヘシ

但人民所持船ノ分ハ其管轄廳へ願出許可ヲ受クヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與へ其旨内務省へ届出ヘシ

第四條 銃砲ノ設備ヲ許可セシキハ其旨海軍省へ通知スル事トス
尤省使ノ分ハ正院ヨリシ府縣并ニ人民ノ分ハ内務省ヨリ通知スヘシ

第五條 諸省使府縣并ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ

但銃砲彈藥等買入ル、節ハ明治五年正月第廿八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

〔達書〕

内務省

西洋形船へ大小砲設備ノ儀第九拾八號ノ通布告候ニ付テハ自今各府

縣所轄ノ官船并人民所持ノ商船へ銃砲設備ノ儀申出候ハ、右布告ニ照準處分致スヘク此旨相達候事

○本月十六日分

任陸軍中尉

陸軍省十等出仕山根益介

○本月十九日分

任六等判事

鑛山權助從六位津田弘道

○本月二十五日分

依願免本官

陸軍中佐 河村 洋與

但位記返上之事

○本月二十八日分

兼補權少教正

枚岡神社大宮 古川 躬行
司兼大講義

太政官日誌明治八年第七十三號

○六月二日

〔第九拾三號達書〕 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

諸公文書郵送ノ節ハ量目ノ調査周密注意スヘキハ勿論ニ付差違等無
之筈ニ候得共若シ前拂稅不足スル時ハ其不足稅及增稅共郵書受取先
官廳ノ仕拂ニ可相立此旨相達候事

〔達書〕

參議

木戸

孝允

地方官會議議長被 仰付候事

〔番外達書〕

參議

木戸

孝允

地方官會議議長被 仰付候事

右之通本日御達相成候條此旨相達候事

○ 院 省 廳

府下淺草東本願寺ヲ以テ假ニ地方官會議所ニ被定候處場所狹隘ニ付院省廳官員一兩名ヲ限リ傍聽被差許候條此旨相達候事

任七等判事 岡田 吉顯

○六月三日

補主船寮七等出仕 清水 誠

任四等判事 五等判事 正六位 早川 景矩

任七等判事 正七位 依田 董

同 富永 冬樹

任權中檢事 福岡縣參事 山根 秀介 從六位

任少檢事 東京府七等出仕 黒岩直方

同 從六位 兵頭 正懿

○六月四日

〔第九拾四號達書〕 使 府 縣

明治六年五月第百七拾四號ヲ以テ新紙幣見本官費ニ遣出候分引換方ノ儀及布告置候處猶又諸向ニ於テ同紙幣ノ内左ノ通紛失候旨届出候右ハ一般ニ流通致居候哉モ難計ニ付引換遣スヘク候條最前遣出候紙幣共渾テ來ル八月三十一日ヲ限リ管下無漏取調所持人有之候ハ、出所先々取糺シ疑敷儀無之ニ於テハ豫備金ノ内ヲ以テ一時操替引換置遣テ右手續書相添換金請取方大藏省へ可申出此旨相達候事

新札見本百四拾四枚

紛失ノ分

内

拾圓

貳拾枚

五圓

貳拾枚

貳圓

貳拾枚

壹圓

貳拾壹枚

半圓

貳拾貳枚

貳拾錢

貳拾枚

拾錢

貳拾壹枚

〔第九拾五號達書〕

府

縣

本年十一月第十一號ヲ以テ每府縣官員一名ツ、内務省へ可詰旨相達候處

自今詰合ニ及ハス候條此旨更ニ相達候事

○

任七等判事

正七位

長森

敬斐

任准陸軍大尉

開拓大主典宮田

正之

○五月七日分

叙從七位

眞部

忍

○五月八日分

叙從七位

兒玉

良友

○五月十日分

任陸軍大尉

陸軍中尉
從七位

兒玉

良友

太政官日誌明治八年第七十四號

○六月五日

〔第九拾六號達書〕輪廓附府

縣

本年^三第三拾六號達經費概目及內譯明細簿雛形ノ内別紙ノ通改正候條此旨相達候事^{別紙略之}

〔第九拾七號達書〕同

使

府

縣

皇國地誌編輯例則并ニ着手方法別冊ノ通相定候條右ニ照準シ精覈調査致シ地理寮へ可差出此旨相達候事^{別冊略之}

〔達書〕

御用有之小田原表
出張被 仰付候事

工部大輔

山尾

庸三

印書局副長被 仰付候事

權少外史

安川

繁成

○
補鑛山寮七等出仕

鑛山大屬 服部 貞幹

兼任五等判事

愛知縣令 鷺尾 隆聚

同

磐前縣權令 村上 光雄

同

若松縣令 澤 簡德

同

山形縣權令 關口 隆吉

同

石川縣權令 桐山 純孝

同

鳥取縣權令 三吉 周亮

同

濠田縣令 佐藤 信寬

同

愛媛縣權令 岩村 高俊

兼任六等判事

三重縣參事 鳥山 重信

同

小倉縣參事 堀尾 重興

同

大分縣參事 米良 悔堂

兼任七等判事

青森縣權令 那須 均

同

岡山縣權令 西 毅一

○六月七日

〔第九拾九號布告〕輪廓附

家祿奉還ノ者へ資金被下方規則中第一條へ但書追加ノ儀明治七年三月
第三拾七號ヲ以テ布告候處右但書相廢シ自今割奉還不聞届候條此旨
布告候事

〔第百號布告〕同

本年五月第九拾三號布告控訴上告手續第十六條上告者預ケ金ノ儀ハ追

テ相達候迄差出ニ不及候條此旨布告候事

兼任六等判事

岐阜縣參事

小崎

利準

叙從七位

好本

忠璋

同

那野

直

○五月八日分

叙從七位

堤

千之

同

大熊

秀壽

○五月十日分

補開拓使六等出仕

開拓使七等出仕馬島 讓

叙正七位

飯倉

好察

叙從七位

興津

景宗

同

深堀

弼之

同

北楯

利光

同

和田

正英

同

齋藤

惟一

同

福田

昌博

同

町田

實賢

同

高橋

種生

同

山本

盛英

同

小出

義之

同

沼田

尚庸

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

○五月十二日分

三上 宣之

堀内 保福

隱岐 重節

大室 勝武

今田 唯一

夏目 勻

助川 正敬

安藤 照

佐藤 義方

岩永 文次郎

任陸軍會計軍吏

陸軍省九等出仕篠原國清

任陸軍會計軍吏副

陸軍中尉 堀 忠次

任陸軍會計軍吏補

陸軍曹長 若月 計介

補開拓使七等出仕

開拓大主典湯池 定基

叙從七位

梅林 潔

太政官日誌明治八年第七十五號

○六月八日

〔第百壹號布告〕輪廓附

明治六年八月第二百九十六號布告文部省官等表中督學局官等左表ノ通
改定候條此旨布告候事

督學局官等改正表

三	等四	等五	等六	等七	等八	等九	等十	等十一	等十二	等十三
大督學	中督學	少督學		大視學	中視學	少視學		大書記	中書記	少書記

〔達書〕

文

部

省

其省中督學局官等別表之通被改候條此旨相達候事
別表前二
載大略之

〔第百貳號布告〕 輪廓附

明治六年六月第百九拾五號布告金穀貸借請人証人辨償規則本年十月一日ヨリ左ノ通改正施行候條此旨布告候事

金穀貸借請人証人辨償規則

第一條

金銀件用返濟相滯リ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ分請人証人へ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其請人証人ヲモ身代限申付其上不足相立候ハ、借主並ニ請人証人ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致事

第二條

借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其請人証人へ濟方申渡シ候上不相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハ、請人証人ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致事

第三條

身代限申付候上不足相立身代持直次第皆濟可致旨左ノ雛形ノ通裁判所ニ於テ其原証文ノ裏へ記シ押印ノ上貸主へ可相渡置事

裏書雛形

第一條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓相滯ルニ付借主何ノ誰身代限申付ル處不足相立請人証人何ノ誰ヲモ身代限ヲ以テ辨償爲致都合金何百何拾圓ニ相成ニ付右請取殘リ何百何拾圓ハ借主何ノ誰請人証人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致モノ也

年月日

某裁判所印

第二條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓借主何ノ誰失踪跡相續人無之ニ付証人証人
 何ノ誰ヘ身代限ヲ以テ辨償申付ル處金何百何拾圓ニ相成ニ付右
 受取殘リ何百何拾圓ハ証人証人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身
 代持直シ次第皆濟可致モノ也

年月日

某裁判所印

〔第三百三號布告〕輪廓附

今般裁判事務心得左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條

一各裁判所ハ民事刑事共法律ニ從ヒ遲滯ナク裁判スヘシ疑難アル
 ヲ以テ裁判ヲ中止シテ上等ナル裁判所ニ伺出ルコトヲ得ス但シ刑
 事死罪終身懲役ハ此例ニアラス

第二條

一凡ソ裁判ニ服セサル旨申立ル者アル時ハ其裁判所ニテ辨解ヲ爲
 スヘカラス定規ニ依リ期限内ニ控訴若クハ上告スヘキコトヲ言渡
 スヘシ

第三條

一民事ノ裁判ニ成文ノ法律ナキモノハ習慣ニ依リ習慣ナキモノハ
 條理ヲ推考シテ裁判スヘシ

第四條

一裁判官ノ裁判シタル言渡ヲ以テ將來ニ例行スル一般ノ定規トス
ルヲ得ス

第五條

一頒布セル布告布達ヲ除クノ外諸官省隨時事ニ就テノ指令ハ將來
裁判所ノ準據スヘキ一般ノ定規トスルヲ得ス

〔第九拾八號達書〕同 使 府 縣

明治七年^九月第九拾貳號ヲ以テ社寺祿遞減給與ノ儀相達候處社寺上地
ノ再草高無之分及ヒ折半高米壹升金拾錢未滿ノ分給與方左ノ通相定
候條此旨社寺ヘ布告スヘキ事

但地方廳ニ於テ早々取調大藏省ヘ可差出事

一社寺上地ノ内草高無之除地等ノ分ハ正租雜稅共明治元年ヨリ同

六年マテ六ケ年平均現收納米金高ヲ直ニ折半更ニ社寺祿トシ遞
減下賜候事

但從前ヨリ雜穀收入ノ分六ケ年平均ノ儀ハ各府縣管内明治元
年ヨリ同六年マテ年々平均相場ヲ以テ石代金ニ換候六ケ年平
均高ノ折半辻ヲ遞減シテ下賜候事

一社寺祿ノ内折半高米壹升金拾錢未滿ノ分遞減ヲ以テ十ケ年間ニ
可下賜高ヲ合計シ初年一時ニ下賜候事

〔第九十九號達書〕 院 省 使 廳 府 縣

諸官員暑中休暇ヲ賜候條總テ昨七年^七月第八拾四號達ノ通可心得此旨
相達候事

〔達書〕

內 務 省

京都府管下山城國宇治郡黃檗山境内ニ於テ火藥貯蓄所トシテ四萬八千九百五拾九坪官有地第二種官用地ニ組入レ陸軍省へ渡方可取計此旨相達候事

○ 大 藏 省

京都府管下山城國宇治郡黃檗山境内ニ於テ火藥貯蓄所トシテ四萬八千九百五拾九坪官有地第二種官用地ニ組入レ陸軍省へ渡方可取計様内務省へ相達候條此旨可相心得事

○ 開 拓 使

函館裁判所敷地トシテ同所南新町町會所持地ノ内貳千三百七拾六坪餘司法省ニ於テ買上ノ儀聞届候條右地所同省へ渡方可取計此旨相達候事

○ 内 務 省

函館裁判所敷地トシテ同所南新町町會所持地ノ内貳千三百七拾六坪餘司法省ニ於テ買上ノ儀聞届候條右地所同省へ渡方取計候様開拓使へ相達候條此旨可相心得事

○ 大 藏 省

別紙司法省伺函館裁判所敷地買上ノ儀聞届候條爲心得此旨相達候事
略之

○ 司 法 省

箱館裁判所所轄之外北海道人民死罪并終身懲役伺之儀死罪ハ一般ノ例ニ依リ大審院ニ於テ批可シ終身懲役ハ箱館裁判所ニ於テ批可スヘ
此旨相達候事

但開拓使へハ別紙之通相達候事別紙略之

○

開拓使

今般大審院諸裁判所章程被定候ニ付テハ死罪并ニ終身懲役伺之儀死罪ハ一般ノ例ニ據リ大審院へ差出シ終身懲役ハ函館裁判所へ擬律按ヲ具シ差出シ批可ヲ受クヘク此旨相達候事

○

司法省

今度控訴手續相定候處北海道之儀ハ一般ノ例ヲ以テ施行シ難ク候ニ付右手續當分左之通相定候條此旨相達候事

第一條

北海道人民函館裁判所管外之者控訴スルニハ函館裁判所ニ於テスヘシ函館裁判所ニ於テハ裁判官三人廷ニ列シ上等裁判所章程ニ依

テ覆審スヘシ

第二條

函館裁判所管内ノ者ハ福島上等裁判所ニ控訴スヘシ但内外人民交渉ノ訴訟ハ東京上等裁判所ニ控訴スヘシ

○

開拓使

今度控訴手續相定候處北海道之儀ハ一般ノ例ヲ以テ難施行候ニ付當分右手續左之通相定候條此旨管下へ可布達事控訴手續前ニ載ス略之

○

六等出仕 尾崎 三郎

地方官會議御用掛兼勤被 仰付候事

○

任中督學

大督學 野村 素介
從五位

任少督學

中督學

正六位

島山

義成

兼任五等判事

濱松縣令

林

厚德

兼任六等判事

濱松縣參事

石黑

務

太政官日誌明治八年第七十六號

○六月九日

任外務少輔

外務大丞

森

有禮

依願免本官

陸軍會計軍吏補藤井政茂

免本官但位記
返上

海軍少醫監高木 兼寬

補文部省五等出仕

三等教授

三宅

秀

補文部省七等出仕

五等教授 櫻村 清德

任四等判事

大田黑 惟信

兼任六等判事

長野縣參事

楠崎

寬直

○六月十日

本日午後第二時英國特命全權公使ハリエスパルケス公廷ニ於テ謁見

シ左之國書ヲ奉呈ス 其式之ヲ畧ス

天帝ノ惠ヲ受ケ天道正理ヲ守護スル大貌列頭兼愛倫ノ皇帝ウイクトリヤ敬テ至尊至大我良友從兄タル日本皇帝陛下ニ白ス曩ニ特命全權公使ノ任ヲ奉シ我國ニ駐劄セル寺島宗則ノ職ヲ解キ外務卿ニ昇任セシメラル旨ヲ報知セラル、陛下ノ懇書正ニ接手ヲ辱フシ感謝ニ堪ヘス寺島宗則ノ我國ニ在ルヤ言行共ニ貴重スヘクシテ能ク余カ意ニ適シ兩國ノ友誼好情ヲシテ益々深厚ナラシムルニ足リシ事余カ謹テ陛下ニ證述スル所ナリ茲ニ余カ恭敬ノ意ヲ表シ併テ陛下ノ幸福 皇家ノ昌榮ヲ祈ル

紀元一千八百七十五年即余カ即位第六十八年ニ當ル三月四日ウインドソル城ニ於テ之ヲ記ス

ウイクトリヤ 自記

デルヒイ 傍記

勅語

曩ニ正四位寺島宗則カ貴國在留全權公使ノ任ヲ解キタル旨ヲ報セシニ今般貴皇帝陛下ヨリ懇勉ノ答書ヲ送ラレ朕之レヲ落手ス宗則貴國ニ駐劄スルノ日陛下ノ恩寵ヲ受ケ朕満足スル所ナリ卿ヨリ此旨ヲ陛下ニ奏達アラシコヲ望ム卿常ニ壯健珍重ナリ次ニ同國軍艦ヲヤルレンデル號乘組船將以下

- カピテーイン トムソン
- フロブツソル トムソン
- コンマンドル メクグリエル

リユーテナント

ベッセル

ソブリューテナント

足利

プロツソルドムン附書記官

ゼー、セー、ウィルド

右公使誘引シテ御前ニ進ミ其名ヲ披露ス各拜禮御會釋アリ畢テ退ク同日午後第三時白耳義國辦理公使シドグロート公廷ニ於テ謁見シ左之國書ヲ奉呈ス其式之ヲ畧ス

威望アル白耳義國皇帝レヲボル第二世謹テ德望隆盛ナル日本國皇帝陛下ニ白ス本月四日ヲ以テ我親愛セル女リユウイズ、マリ、ラーギメリ殿下ト「サク」之「ヂユツ」フエルデナン、フイリツプ、マリ、ラーギユスト、ラフアエル侯殿下ト婚儀之禮アリユセール府ニ於テ執行セ

リ陛下モ此慶賀ノ喜悅ヲ共ニ給ハン事ヲ深ク冀望ス茲ニ陛下ノ不朽康寧ヲ祈ル

千八百七十五年二月五日於アリユセール王宮記之

レヲポル手記

奉勅 コントダスプルモン、リन्दデー手記

德望隆盛アル

日本皇帝陛下

勅語

今般貴國皇帝陛下親書ヲ以テ皇女ノ「サク」侯殿下ト婚嫁ノ禮ヲ行ハレタル旨ヲ告ケラレ朕モ陛下ト此ノ喜悅ヲ共ニシ且皇家ノ繁榮ヲ祝シ併セテ陛下ノ安靜ヲ祈ル卿常ニ壯健珍重ナリ

〔達書〕

內務省

造幣寮所轄大坂川口元東洋銀行地所貳百五拾壹坪七分九厘同所稅關官用地ニ組入大藏省へ引渡方可取計此旨相達候事

○ 同 省

陸中國閉伊郡釜石鑛山寮支廳鑛鐵所入用ノ薪炭苗木植付ノ爲同郡甲子村字大松倉山反別五百拾壹町五反七畝歩工部省官用地トシテ同省へ引渡方可取計此旨相達候事

○ 大藏省

陸中國閉伊郡釜石鑛山寮支廳鑛鐵所入用ノ薪炭苗木植付ノ爲同郡甲子村字大松倉山反別五百拾壹町五反七畝歩工部省官用地トシテ同省へ引渡方可取計様内務省へ相達候條此旨相達候事

任權大書記官

河津 祐之

任權少書記官

陸軍省八等出仕戸田秋成

兼任五等判事

福島縣令 安場 保和
從五位

○五月十一日分

叙從七位

田中 種審

○五月十四日分

任七等判事

權少判事 伊庭 貞剛
正七位

補開拓使六等出仕

開拓使七等 金井 信之
出仕從七位

○五月十七日分

任陸軍會計軍吏補

陸軍少尉 草野 英行

叙從七位

永田 由謨

同

宮崎 政光

○五月十八日分

叙從七位

菅 道榮

同

岡本 高邇

同

重友 直尙

○五月廿二日分

叙從七位

福賴 義臣

○五月廿五日分

免本官

陸軍少尉 岩崎 恆義

叙正六位

從六位 黒木 爲楨

○五月廿九日分

兼任陸軍劑官副

陸軍軍醫副 淺井 謹

兼補權少教正

大鳥神社大宮 三條西公允

○六月二日分

任陸軍會計軍吏補

陸軍少尉 津田 宗時

補權少教正

大講義 葦名 日周

○六月三日分

兼補權少教正

龍田神社大宮 渡邊 重春

同

氷川神社少宮 穂積 耕雲

○六月四日分

任海軍大主計

海軍省八等出仕奈良真志

○六月十二日

太政官日誌明治八年第七十七號

○六月十二日

(第百四號布告)

郵便切手各種并ハカキ封皮印面之イロハ文字自今删除候條此旨布告
候事

但當分從前ノ品取交相用不苦候事

補紙幣寮七等出仕

紙幣大屬 藤島 正健

補陸軍省七等出仕

正七位 荒井 宗道

任海軍少丞兼海軍主計大監

海軍主計大 長谷川 貞雄
監正六位

補東京府七等出仕

東京府大屬 福田 敬業

八十七

○六月十三日

(第百五號布告) 輪廓附

本年二月第三拾貳號布告蠶種製造組合條例第八條第三節中蠶種印紙稅左ノ通改正候條此旨布告候事

第八條

第三節

全紙へ貼用ノ分

淡墨 印紙壹枚ニ付 金六錢

分裁紙へ貼用ノ分

黃色 印紙壹枚ニ付 金壹錢五厘

但 從前ノ通

(第百號達書) 輪廓附 院 省 使 廳 府 縣

檢閱使職務條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事別冊略之

(第百壹號達書) 院 省 使 廳 府 縣

旅費定則中第拾八章自今廢止候條此旨相達候事

兼任七等判事 長野縣權參 小倉 勝善

○明治七年四月二十二日分

叙從六位 正七位 櫻田 親義

○同年五月一日分

叙正七位 中島 才吉

○明治八年五月七日分

八十八 八十九 九十

叙從七位

小松 維直

○同月九日分

叙從七位

美代 清元

○同月二十二日分

任陸軍少尉

陸軍省十二等出仕曾田儀一

○同月二十四日分

叙從七位

高畠 信貫

○同月二十五日分

叙正五位

從五位 杉浦 誠

叙正六位

從六位 與倉 知實

太政官日誌明治八年第七十八號

○六月十四日

(第百貳號達書) 輪廓附 使 府 縣

明治七年^{五月}第五拾八號達議院憲法中第五條但書并第十條ヲ被削除同規則及^ヒ同年^{九月}第百拾八號達同小目別冊ノ通修正候條此旨相達候事

議院憲法^{之略}

議院規則凡例

院中規則中大會議ト云者ハ則議員平常會議ノ席ニシテ數箇ノ事件ヲ漸次ニ議スルヲ得

小會議ト云者ハ平常ノ會議ニ異ナリ譬ヘハ一事ソ可ヲ大會議ニテ決スト雖モ其方法及^ヒ議案ノ章句等ヲ審議討論セント欲スル時ハ

別ニ會議ヲ開キ議長其坐ヲ退ク若シ自己ノ説ヲ陳ヘント欲スレハ
衆議員ト共ニ列坐シ互ニ是非ヲ討論ス此會議席ニ於テハ唯其一事
ニ關スル方法ヲ議スル而已決シテ他事ヲ議スルヲ得ス此間幹事長
其會主トナル小會議ヲ開ク時或ハ參集ノ議員悉ク列席スル事アリ
是ヲ總小會議ト云或ハ別ニ議員中ヨリ委員若干人ヲ撰擧シ之ヲシ
テ別ニ會議セシムル事アリ是ヲ撰任小會議ト云總小會議撰任小會
議ハ事ノ輕重ニ因リテ臨時之ヲ定ムヘシ

議院規則

第一則

幹事長

職掌ハ議長欠席ノ時其職務ヲ代理シ若シ議列ニ就テ自己ノ説ヲ陳

ヘント欲スルハ幹事中ヨリ代理ヲ任スルノ權アリ且小會議ノ節
其會主タルヘシ其餘ハ都テ幹事ニ同シ

第二則

幹事

議長ノ命ヲ以テ議事ニ關スル一切ノ事務ヲ經理ス

小會議ノ時幹事長ノ代理トシテ會主トナルコトアルヘシ

第三則

書記官

院中記録ノ事ヲ總管ス

院中ノ庶務ハ議長ニ問ヒ之ヲ處置スルノ權アリ

以上三官定員ナシ

第四則

書記生

書記官ニ附屬シテ記録ノ事ヲ任ス

第五則

司計長

用度ノ事ヲ總管ス

第六則

司計

司計長ニ附屬シテ用度ノ事ヲ管ス

以上六則奏任官ハ議長上奏シテ之ヲ任シ判任官ハ專ラ之ヲ任ス

但幹事ハ時宜ニヨリ總議員中又ハ各組中ヨリ互撰投票ヲ以之

ヲ定メ幹事長ハ幹事ノ中ヨリ全上ノ法ヲ以之ヲ定メ議長上奏シテ之ヲ任スルヲアルヘシ

第七則

議員

六十二人

各地方ノ知事令本官ノ專務アリト雖モ議院ニ參シタルキハ孰モ一般人民ニ代リ其便否ヲ協同公議スヘシ

第八則

諸事調査スルニ便ナルカ爲ニ議長ノ見込ヲ以テ豫メ議員ヲ數組ニ分テ辨セシムル事アルヘシ

第九則

議事堂着席ノ順序ハ豫メ鬮取ヲ以テ之ヲ定メ椅子毎ニ其番號ヲ記

シ置キ每會必ス其席ニ就クヘシ議長席ニ出ル時ハ議員及書記官起テ禮ヲ爲スヘシ但シ本日議事堂鋪設及諸手續等ハ幹事及書記之ニ幹スヘシ

第十則

會議ノ日ハ午前第九時ニ參院シ午後第四時ニ退院スヘシ時宜ヲ以之ヲ伸縮スルハ議長ノ指圖ニアルヘシ

但シ開院中ハ毎日出頭シテ議事關涉ノ事務ヲ調査スヘシ其時間ハ繁簡ヲ計リ議長之ヲ伸縮スヘシ

第十一則 第一次會

議長垂問ノ大旨ヲ辨明シ其議案ヲ分附シ其旨趣ヲ領承セシム議員各起テ之ヲ聞キ退テ之ヲ熟讀精考スヘシ

第十二則 第二次會

嘗テ受取リタル議案ニ付キ各議員其所見ヲ書シ本日之ヲ衆中ニ於テ讀上ケ或ハ之ヲ演述シ第二十一則ノ規則ニ由テ之ヲ審議スヘシ若シ發論者二人以上同時ニ起ツ時ハ着席ノ順序ヲ以テ之ヲ述フヘシ但シ一員ノ發論中ハ他ノ議員默聽シテ其論議ヲ滿堂ニ洞達セシムヘシ

第十三則 第三次會

前會討論ノ旨趣ヲ再考シ先ニ受取タル議案ノ表面ニ可否ノ一字ヲ朱書シ本日之ヲ議長ニ出スヘシ議長其數ノ多少ヲ檢シ可否ノ二端ヲ決シ書記官ヲシテ其決議ノ文案ヲ草セシメ之ヲ各議員ニ示シ尙ホ其修正スヘキハ之ヲ小會議ニ附シテ修正セシメ淨書ノ後之ヲ奏

聞スヘシ但シ議員其原稿ニ調印シ廻讀セシヲ表スヘシ

第十四則

垂問ノ條件其方法ヲ議スヘクシテ可否ヲ以テ答フヘカラサルモノ
ハ第一次會ニ於テ議長其旨趣ヲ辨明シ各員退テ其方法ヲ熟考シ所
見ノ文案ヲ作り之ヲ議長ニ出ス議長特ニ委員數名ヲ命シテ其同論
多キモノヲ撰集シテ議案トナシコレヲ小會議ニ附シ審議討論第二
次會ニ至リ其歸着スル所ヲ究メ修正シテ答議トスヘシ又或ハ垂問
ノ元按其方法已ニ具ル者ハ第一次會ニ於テ議長其旨趣ヲ辨明シ各
員退テ其方法ヲ熟考シ第二次會ニ於テ條ヲ追テ審議評決スヘシ

但シ本則第一項議員ヲ其方法ヲ考按セシムルモノニ付テハ
時宜ニヨリ第一次會ニ於テ議長其旨趣ヲ辨明シ直ニ委員數名

ヲ命シ其方法ノ考按ヲ草セシメ之ヲ小會議ニ附シテ審議セシ
メ修正ヲ加フヘキモノハ再ヒ委員ヲ修正セシメ第二次會ニ
至リ其歸着スル處ヲ定メテ之ヲ上奏スヘシ

第十五則

各議員自ラ建議セント欲スルモノハ先ツ其議案ヲ議長ニ出シ議長
之ヲ衆議ニ附シ其立論採ルヘシトブルモノハ之ヲ會議ニ附シ各員
右議案ニ付問フモノアルハ建議者之ニ答フヘシ

凡議員一事ヲ建議セント欲スル時其大畧ヲ豫メ少クトモ前五日ニ
顯言スヘシ

第十六則

凡議員ノ建議ニ係ル者ハ議長書記官ヲシテ其議案ヲ展讀セシメ其

議事ヲ始ムヘシ此時ニ當リ建議者尙ホ其旨趣ヲ貫徹センカ爲メ總
議員ニ之ヲ辨明セント議長ニ乞ヒ右書記官展讀ノ後自ラ之ヲ陳述
スルコトヲ得ヘシ

第十七則

事重大ニ涉リ議案ノ旨趣書記官一度之ヲ展讀シテ相貫徹シ難キ者
ハ其會議前書記官ヨリ其寫ヲ各議員ニ分附スル事アルヘシ

第十八則

凡議案ノ條件其大意採ルヘシト雖モ衆論其悉サ、ル所ヲ修正セン
トスルニ決定セハ議長其修正如何ヲ更ニ議員ニ問ヒ各其所思ヲ盡
サシメ書記官又ハ委員ヲ撰ンテ其修正案ヲ命シ小會議ヲ期シテ之
ヲ議スヘシ

第十九則

建白ハ本年第六十八號布告ノ旨ニ依リ願書ハ従前ノ成規アルヲ以
之ヲ削ル

第十九則

至急ノ議事ハ假令點燈夜半ニ至ルモ之ヲ決シ第二次會ヲ待タサル
事アルヘシ

第二十則

大會議中申議員ヨリ乙議員ニ對シ詰問或ハ質問スル事アレハ必ス
議長ノ面前ニ於テスヘシ乙ヨリ議長ニ向ヒ之ヲ答レハ申復タ同議
ニ付發論スルヲ得ヘカラス若シ乙其意ヲ誤解シタルキハ申ヨリ議
長ニ向テ其誤解タル所以ヲ辨明スルヲ得惟小會議ノ時ハ再三互ニ

討論スルヲ得ヘシ

第二十一則

凡ソ議論ハ虚心平易ヲ以テ旨トシ公平無私ヲ準トス若シ議事ノ規則ヲ亂ル者アルキハ議長之ヲ警メ屢ク之ヲ犯ス者ハ衆議ノ上其人ヲ退院セシムル事アルヘシ議事中言ノ差謬アルキハ議長之ヲ糺スヘシ

第二十二則

議員議事堂ニ入レハ帽ヲ脱スルヲ禮トス

第二十三則

會議ノ日議員故アリテ欠席ノ節ハ他ノ一員ヘ其議セント欲スル事件ヲ委托シ置クヘシ一員ニテ二員ノ委托ヲ受クヘカラス

第二十四則

議員十分ノ六欠席セハ本日議事ヲ開ク可ラス

(第百十八號達書)

使

府

縣

本年^五月第五十八號達議院規則小目別冊ノ通被定候條此旨相達候事

明治七年九月九日

太政大臣三條實美

議院規則小目

凡例第二段

幹事長議長トナル云々

幹事長議長トナル時ハ其權限議長ニ同シ議長退テ議列ニ就クノ間ハ其權限議員ニ異ナルヲナシ

撰任小會議云々

委員小會議ヲ開ク時ハ別ニ一席ヲ設ク可シ

議院規則中

第二則

幹事ハ議員ノ組分ニ從テ組毎ニ一人ヲ配ス垂問ノ條件及建議ノ旨趣ヲ審ニシ特ニ議員ノ質問ニ應ヘ其他組中一切ノ事ヲ擔當經理シ各組ヲノ一和協同セシムルヲ以テ要トス

第三則中

書記官

書記官ハ議員論議ヲ陳述スルニ際シ側ヨリ之ヲ筆記スヘシ若シ議員中其文案ヲ齎ス者アル時ハ議了ノ後之ヲ乞テ校正スルモ可ナリ

第九則

議事ノ始終ハ號鐘ヲ以テスヘシ

第十一則中

第一次會議案云々

議員ニ分附スルノ議案并問題等ハ印書局ニ附シテ刷印セシムヘシ

第十二則中

各議員其所見ヲ書シ衆中ニ於テ讀上ケ或ハ之ヲ演述シ云々
議員其答議ノ書取ヲ爲サス唯口頭演述ノミヲ爲スモ可ナリ
章中二十條ノ規則ニ由テ云々
二十條ハ二十一則ノ誤ナリ

第十四則中

所見ノ文案ヲ作り之ヲ議長ニ出ス云々

議長ニ出スハ期日ヲ撰ハス稿成ルニ從ヒ封書ヲ以テ幹事ニ出ス
ヘシ幹事之ヲ集メテ議長ニ出ス議長之ヲ檢シテ委員ヲ命シ其同
論多キモノヲ撰集シテ議案トナシ小會議ヲ經テ後第二次會ノ期
ヲ報知スヘシ

第十五則中

衆議ニ附シ云々

議員一事ヲ建議セント欲スル時ハ其前少クモ五日ニ於テ先ツ其
立論ノ大旨ヲ衆中ニ揚言シ爾後何日方ニ此議ヲ發論センコトヲ演
ヘ即日其議案ヲ幹事ニ出スヘシ幹事之ヲ刷印セシメ各議員ニ分

賦ス期日ニ至リテ議長議事席ニ於テ其建議ノ旨趣協議ニ附スヘ
キヤ否ヲ議員ニ問フ議員之ヲ議スヘシトスルモノ半ニ過ルキハ
則チ一定ノ規則ニ從ヒ之ヲ議スヘシ若シ其論議ノ旨趣緩急時勢
ニ適セサル歟又ハ數日延期スヘシトスル者全員ノ半ニ過ル時ハ
之ニ從ヒ其日ノ會議ニハ附セサルナリ

第二十一則中

議長ノ面前ニ於テスヘシ云々

甲議員乙議員ニ向ヒ質問セントセハ議長ニ向テ演述スヘシ乙亦
之ニ答ルモ議長ニ向テ發言スヘシ
但シ其地位ニ停立シテ辨論スヘシ

第二十二則中

議員議事ノ規則ヲ犯シ議長之ヲ警ムルモ敢テ從ハサル時ハ警視
ニ命シテ之ヲ處置セシムルコトアルヘシ

(第百三號達書)

院 省 使 廳 府 縣

來ル二十日地方官會議開院式被爲行候ニ付本日午前第十一時 臨御

被 仰出候條此旨相達候事

但當日傍聽人拜見被差許候事

(達書)

隱居被 聞食候事

從五位

小笠原 貞規

相續被 仰付候事

小笠原 愛

○

任權少書記官

伊勢 時治

兼任五等判事

宮城縣權令 宮城 時亮

太政官日誌明治八年第七十九號

○六月十五日

補內務省七等出仕

內務大錄 五月女 由澄

同

同 岡本 益道

同

同 春名 修德

補戶籍寮七等出仕

戶籍大屬 長沼 靖洲

補地理寮七等出仕

正七位 北澤 正誠

○六月十七日

(第百四號達書)

院 省 使 廳 東京府

來二十日地方官會議開院式被爲行候ニ付正院休暇候條此旨爲心得相達候事。

(達書)

陸軍省

來二十日地方官會議開院 臨御中儀仗及七守衛トシテ步兵一大隊同所へ可差出此旨相達候事

但諸事式部寮へ可打合事

○ 宮内省

奈良縣下東大寺正倉院文庫中天平年間ノ古文書類爲修史參考一應御取寄相成候條爲 勅封發遣ノ官員ニテ取調携歸可致此旨相達候事

兼任五等判事

置賜縣權令 新莊 厚信

同

新川縣權令 山田 秀典

兼任六等判事

豐岡縣參事 田中 光儀

○六月十八日

(第百六號布告) 輪廓附

明治七年^{十月}第百四號布告左ノ通改正候條此旨布告候事

地所賣買致シ候節代金受取ノ証文有之共地券申受ケサレハ買主ニ

其地所所有ノ權無之候條規則ノ通地券書替可申請事

(第百七號布告) 輪廓附

家祿賞典祿事故アリテ沒收又ハ終身祿ノ著死亡等ニ付收祿ノ節其年經過スル月數ニ應シ給祿渡方ノ儀ハ前年ノ貢納相場ヲ以テ其都度石代ニテ支給候條月割十五日前後ヲ以渡方取調甲ノ月取祿セシモノハ乙ノ月限リ請取方其管廳ヨリ大藏省へ可申出此旨布告候事
但祿稅ノ儀ニ付明治七年^{五月}第五十五號ヲ以テ金給ノ分トモ其貢納

九十四 九十五

相場相用ニ可申旨布告候處本文收祿ニ付給與ノ祿高稅納ニ限リ金給ノ分トモ自今前年貢納相場相用ニ其都度石代ヲ以取立上納可致事

(第百五號達書) 輪廓附 府 縣

本年二月第貳拾三號ヲ以テ從來ノ雜稅ヲ廢シ差向營業取締差支候類ハ當分地方ニ於テ收稅ノ答ニ候旨及布告候處右收稅ノ儀ハ總テ大藏省へ可伺出此旨相達候事

(第百六號達書) 府 縣

地方官會議傍聽人ノ儀ニ付本年五月第七拾貳號ヲ以テ相達置候旨モ有之候處上京知事令參事隨從ノ屬ノ内傍聽相願候者ハ兼テ被差許候傍聽人申合定員貳人ノ中ヲ以糺合交番罷出候テモ不替候條此旨爲心得

相達候事

(達書) 内 務 省

大學校設立地トシテ千葉縣管下下總國葛飾郡真間國府臺地七萬三千四百七拾五坪壹合貳勺五才ノ内官有地ハ受取民有地ハ買上度文部省伺ノ趣聞屆候條右坪數官有地第四種ニ組入同省へ渡方可取計此旨相達候事

大 藏 省

別紙 略之 別紙文部省伺大學校設立地所ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

教 部 省

千葉縣管下下總國葛飾郡真間國府臺ニ於テ七萬三千四百七拾五坪餘

九十六 九十七

大學校設立地トシテ文部省へ相渡候條該地内社寺ハ同省ヨリ協議次第移轉等可取計此旨相達候事

○ 文 部 省

地方官會議開院中醫師兩名同所へ相詰候様可取計此旨相達候事
但地方官會議御用掛へ可打合事

○ 各通 少内史 牟田口 通照
六等出仕 尾崎 三郎

地方官會議幹事被 仰付候事

○ 各通 六等出仕 藤澤 次謙
樞少外史 安川 繁成
七等出仕 兒玉 淳一郎

地方官會議書記官被 仰付候事

○ 檢査助 南部 廣才

地方官會議司計長被 仰付候事

○ 補四等出仕 福地 源一郎

地方官會議書記官被 仰付候事四等出仕 福地 源一郎

○ 補五等出仕 從五位 長 茂

地方官會議書記官被 仰付候事五等出仕 長 茂

○ 補陸軍省七等出仕 正七位 大島 貞恭

兼任六等判事 岩手縣參事 竹中 寛

兼任七等判事 飾磨縣權參 岡崎 真鶴

奉

任水澤縣權參事

內務省七等出仕森 醇

兼任七等判事

水澤縣權參事森 醇

○本月七日分

兼任五等判事

靜岡縣權令 大道 貞清

兼任六等判事

同縣參事 毛利 恭助

○本月九日分

兼任六等判事

若松縣參事 小池 浩輔

太政官日誌明治八年第八十號

○六月十九日

〔第百七號達書〕 輪廓附 府 縣

明治六年七月第貳百三拾五號ヲ以テ社寺境内伐木ノ儀布告候處自今延喜式内并國史見在神社境内ノ分ハ同年十月第三百五拾四號達書官國幣社ニ準シ若シ難止事情有之伐木願出候節ハ教部省へ伺出處分可致此旨相達候事

〔第百八號達書〕 同 院 省 使 廳 府 縣

雇出仕并邏卒門番ノ類各廳ニ於テ適宜日給ノ者及ヒ稅關監吏へハ本年七月一日ヨリ一ヶ月宿代金壹圓五拾錢下賜候條明治七年一月第三號達官員宿代賜方規則ニ照準シ支給可致此旨相達候事

補七等出仕

地方官會議書記官
被仰付候事

兼任六等判事

兼任七等判事

○六月廿日

本日地方官會議開院式被爲行候ニ付正院休暇

○本月十日分

任一等侍講

兼補權少教正

○六月廿二日

依田 百川

七等出仕 依田 百川

秋田縣參事 加藤 祖一

從六位 相川縣權參 磯部 最信

事正七位

參議 伊地知 正治

正四位 豐國神社宮 萩原 員光

司兼中講義

〔第百九號達書〕 輪廓附 使 府 縣

邏卒ノ儀自今等外吏ニ準シ取扱候條此旨相達候事

〔達書〕 文 部 省

其省所轄衛生准刻二項ノ事務自今内務省所轄被 仰付候條同省へ遂

協議從前右ニ關シ候官員簿書共引渡可申此旨相達候事

但内務省へ別紙ノ通相達候事

○ 内 務 省

文部省所轄衛生准刻二項ノ事務自今其省所轄被 仰付候條同省へ遂

協議從前右ニ關シ候官員簿書共都テ受ケ繼クヘク此旨相達候事

但文部省へ別紙ノ通相達候事

○ 開 拓 使

延喜式内并國史見在神社境内伐木ノ儀ニ付別紙第百七號ノ通府縣へ
相達候條爲心得此旨相達候事 別紙前ニ
載ス畧之

兼任五等判事

小田縣權令 矢野 光儀

同

名東縣權令 古賀 定雄

兼任七等判事

北條縣七等出仕鈴木 董

○本月十二日分

兼任五等判事

岩手縣令 島 惟精

同

秋田縣權令石田 英吉

同

筑摩縣權令 永山 盛輝

兼任六等判事

奈良縣參事 岡部 綱紀

同

福島縣參事 山吉 盛典

同

敦賀縣參事 寺島 直

同

新川縣參事 成川 尙義

同

相川縣參事 鈴木 重嶺

同

岡山縣參事 石部 誠中

同

和歌山縣參事 河野 通

兼任七等判事

堺縣權參事 吉田 豐文

同

石川縣權參事 熊野 九郎

同

豐岡縣權參事 大野 右仲

同

福島縣七等出仕 木村 矩至

同

岩手縣七等出仕 廣瀬 範治

同

新川縣七
等出仕

松原

貫速

同

鳥取縣七
等出仕

黒河

正治

補長野縣七等出仕

長野縣大屬松野

篤

叙從七位

永島

良幸

太政官日誌明治八年第八十一號

○六月二十三日

〔第一百拾號達書〕

輪廓附

府

縣

府縣ニ於テ公務ニ關シ長官或ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達及ヒ往復ス
ル書類ニ相用候印章ノ儀勅任ハ方九分_{尺曲}奏任ハ方七分判任ハ方六分
トシ官名苗字名ヲ彫刻可致此旨相達候事

〔達書〕

内

務

省

文部省直轄長崎師範學校地所狹隘ニ付別紙圖面朱引ノ通四百七拾九
坪貳合六勺同校ヘ圍込ノ儀聞届候條官有地第四種ヘ組入レ同省ヘ渡
方可取計此旨相達候事

別紙圖面略之

○

大

藏

省

文部省所轄長崎師範學校地所狹隘ニ付別紙圖面朱引ノ通四百七拾九坪貳合六勺同校へ圍込ノ儀聞届候條官有地第四種へ組入ノ同省へ渡方可取計様内務省へ相達候條此旨可相心得事同前

御用有之歸朝被 仰付候事

外務三等書記官厚東樹臣

地租改正事務局御用掛被 仰付候事

租稅權助 穴戶 昌

熊本鎮臺司令長官被免候事

陸軍少將 谷 干城

陸軍省第四局長被免候事

同 野津 鎮雄

熊本鎮臺司令長官被免候事

同 人

佛國公使館在勤申付候事

外務二等書記生前田正名

任權大書記官

海軍省五等 九岡 莞爾
出仕從六位

任海軍大主計

海軍中主計安井 直則

同

同 櫻井 貞

任海軍中秘書

海軍中尉 藤井 惟利

同

海軍少秘書原田 啓

同

海軍省十等出仕土岐 裕

兼任六等判事

酒田縣參事 從六位 松平 親懷

兼任七等判事

同縣七等出仕吉田 清英

任七等判事

鎌田 景弼

任掌侍

權掌侍 正六位 平松 好子

同

同 石山 輝子

任權掌侍

命婦

樹下

範子

同

稅所

敦子

○六月二十四日

〔達書〕

修史副總裁被 仰付候事

一等待講 伊地知 正治

○

任權少書記官

山本 弘

兼任六等判事

青森縣參事 鹽谷 良翰

○本月十三日分

兼任五等判事 兼酒田縣令如故

教部大丞兼酒田縣令從五位 三島 通庸

兼任六等判事

名東縣參事 西野 友保

同

兼任七等判事

小田縣參事 益田 包義
鳥取縣權參事 伊集院 兼寬

同

同縣七等出仕 黑河 正治

同

滋賀縣七等出仕 中村 耕

同

廣島縣權參事 白濱 貫禮

○本月十四日分

兼任六等判事

北條縣參事 小野 立誠

兼任七等判事

島根縣七等出仕 星野輝賢

任石川縣參事 兼七等判事如故

石川縣權參事兼七等判事 正七位 熊野九郎

補石川縣七等出仕

石川縣大屬 久島 彦次郎

兼任五等判事

滋賀縣權令 籠手田 安定

○本月十五日分

兼任六等判事

同

兼任七等判事

同

同

○本月十六日分

兼任五等判事

兼任六等判事

兼任七等判事

補岐阜縣七等出仕

濱田縣參事 渡邊 積

山口縣參事 木梨 信一

同縣權參事 吉田 右一

愛媛縣七等出仕 赤川 鷲助

高知縣權參事 手代木 勝任

度會縣權令 久保 斷三

島根縣參事 境 二郎

度會縣權參事 下山 尚

岐阜縣大屬西田 保明

○本月十七日分

補租稅寮七等出仕

兼任五等判事

同

同

兼任七等判事

補權少教正

租稅寮八等出仕高橋新吉

奈良縣權令 藤井 千尋

正六位 敦賀縣權令 山田 武甫

正六位 小倉縣權令 小幡 高政

正六位 福岡縣七等出仕 矢島 直方

大講義 新田 邦光

太政官日誌明治八年第八十二號

○六月二十五日

〔第百八號布告〕輪廓附

新貨條例ノ儀明治五年^五頒布ノ後追々貨幣圖面寸法ノ改正規則目
ノ刪補等有之候ニ付本年^四第六拾貳號布告但書ノ通今般改刻更ニ貨
幣條例ト相改候條此旨布告候事

但明治六年^八第三百八號布告銅貨圖面同七年^三第三拾四號布告壹

圓銀圖面本年^二第三拾五號布告貿易銀圖面共表裏ノ唱へ反對イタ

シ居候ニ付今般改正候事

〔第百九號布告〕同

明治七年^六第六十二號布告亞米利加合衆國ト郵便交換條約第三條中

第四節第五節左ノ通改定相成候條此旨布告候事

帝國日本ト亞米利加合衆國トノ兩國間ニ郵便ヲ以テ交通スル新聞紙及諸般印刷モノ其他商品ノ見本雛形ハ到着地迄ノ郵便稅ヲ悉皆前拂ニセシ爲メ兩國間ニ約スル所ノ條約

下ニ載名スル兩員ハ各其政府ノ命ヲ奉シ一千八百七十三年八月六日即明治六年八月六日華盛頓府ニ於テ亞米利加合衆國ト帝國日本トノ間ニ取結ヒタル郵便互換條約第三條中第四節第五節ヲ左ノ如ク改定スルコトヲ締約ス乃チ

各新聞紙ノ重量四ヲンスニ過ギザルモノハ四セント或ハ四錢諸般ノ印刷モノ其他商品ノ見本雛形ノ重量ニヲンス若クハ其分數每ニ四セント或ハ四錢ヲ到着地届先迄ノ郵便稅トシテ發出地ノ郵便局ニ於テ之ヲ收入ス

ベシ

此條約ハ明治八年七月一日ヨリ實際施行シ同日ヨリ郵便互換條約第三條中第四節第五節ヲ廢スベシ

一千八百七十五年四月二十六日華盛頓府ニ於テ二通ニ認メ署名スルモノナリ

在米日本天皇陛下ノ特命全權公使

吉田清成

米國驛遞總長

マルシヤルセウエル

余此條約ヲ證認シ其證トシテ米國ノ印章ヲ鈐スルモノナリ

ユー、エス、グラント

奉命

國務卿ハミルトンフイシ

華盛頓府一千八百七十五年四月廿七日

朕此條約ヲ定證セン爲メ茲ニ大日本國ノ印章ヲ鈐ス

明治八年六月十五日

御名

御璽

奉勅 外務卿寺島宗則

〔達書〕

陸軍省

神奈川砲臺ニ於テ外國軍艦入港ノ節答砲及ヒ掲旗方等御交際ニ關候ニ付一層注意不都合無之様可取計此旨更ニ相達候事

神奈川縣

別紙ノ通陸軍省へ相達候條砲臺へ報知方不都合無之様可取計此旨相

達候事

別紙前ニ載ス略之

依願免本官

但位記返上

陸軍軍醫副大野 九十九

補工部省四等出仕

製作頭 平岡 通義

補工部省七等出仕

製作權助 羽田 均

同

製作寮七等出仕上田可貞

同

同 藤田 順華

任工學權頭兼製作頭

工部省四等出仕從五位 大鳥 圭介

依願免本職

權中教正 前田 利昭

同

少教正 松平 親貴

補權少教正

大講義 柴田 花守

○三月二十九日分

補開拓使三等出仕

開拓中判官 杉浦 誠

○五月十日分

叙從七位

西島 助義

○同月三十日分

叙從五位

正六位 西村 貞陽

○六月四日分

叙從七位

長江 貞恆

○同月五日分

兼任五等判事

和歌山縣令 神山 郡廉

補權少教正

大講義 原口 照輪

○同月七日分

叙從七位

堀 正施

○同月八日分

任少檢事

水澤縣權參事 本山 茂任

○同月九日分

兼任六等判事

宮城縣參事 遠藤 温

同

磐前縣參事 兒玉 氏精

兼任七等判事

愛知縣權參事 生田 純貞

同

同縣七等出仕 田邊 輝實

同

宮城縣七等出仕 渡邊 習

同

磐前縣七等出仕 山内山彦

同

置賜縣權參事 高山 政康

補中教正

從四位 酒井 忠發

叙從七位

中島 護

太政官日誌明治八年第八十三號

○六月二十七日

〔達書〕

外 務 省

今般貨幣條例ノ儀第百八號ヲ以テ布告候ニ付テハ各國公使ヘハ其省

ヨリ通達可致此旨相達候事

○ 内 務 省

新潟裁判所敷地トシテ同所學校町民有地ノ内貳千坪司法省ニ於テ買

上ノ儀聞届候條右地所官有地第二種官用地トシテ同省ヘ渡方可取計

此旨相達候事

○ 大 藏 省

別紙司法省伺新潟裁判所敷地買上ノ儀聞届候條此旨爲心得相達候事

略別之紙

補內務省四等出仕
兼文部省四等出仕

文部省四等出仕
從五位 長與 專齋

補內務省七等出仕

文部省七等出仕 島田泰夫

任海軍中秘書

海軍省十等出仕 平山太郎

兼任五等判事

福岡縣令 從五位 渡邊 清

同

高知縣權令 正六位 岩崎 長武

兼任七等判事

小倉縣七等出仕 森 長義

依願免本官 但位記返上

七等判事 大久保 親正

同

少警視 津川 顯藏

○明治七年十一月廿四日分

免出仕

開拓使五等出仕 北垣 國道

○本年五月廿二日分

免本官

陸軍少尉 三宅 龍直

○同六月八日分

依願免本官 但位記返上

驛遞權助 山内 賴富

○同月九日分

叙從七位

佐武 廣命

○同月十日分

兼任五等判事

三重縣權令 正六位 岩村 定高

兼任六等判事

度會縣參事 從六位 平川 光伸

同

筑摩縣參事 從六位 高木 惟矩

同

山形縣參事 薄井 龍之

兼任七等判事

三重縣七等出仕藤瀬眞宜

同

滋賀縣權參事酒井 明

同

岐阜縣權參事 斯波 有造

同

筑摩縣七等出仕渡邊千秋

○同月十七日分

兼任六等判事

三瀨縣參事 水原 久雄

兼任七等判事

同縣權參事 松平 太郎

○同月十九日分

兼任五等判事

水澤縣權令 増田 繁幸

○同月廿日分

兼任五等判事

廣島縣權令 藤井 勉三

太政官日誌明治八年第八十四號

○六月二十八日

〔第百拾號布告〕輪廓附

讒謗律別冊之通被定候條此旨布告候事

讒謗律

第一條

凡ソ事實ノ有無ヲ論セス人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公布スル者之ヲ讒毀トス人ノ行事ヲ舉ルニ非スノ惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書若クハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若クハ發賣シ若クハ貼示シ人ヲ讒毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ條別ニ

從テ罪ヲ科ス

第二條

第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ渉ル者ハ禁獄三月以上三年以下
罰金五十圓以上千圓以下 二罰并セ科シ或ハ偏ヘニ
一罰ヲ科ス以下之ニ倣ヘ

第三條

皇族ヲ犯スニ渉ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金十五圓以上
七百圓以下

第四條

官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金十圓以
上五百圓以下誹謗スル者ハ禁獄五日以上一年以下罰金五圓以上三
百圓以下

第五條

華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以
下罰金五圓以上三百圓以下誹謗スル者ハ罰金三圓以上百圓以下

第六條

法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ証スル者ハ第
一條ノ例ニアラス其ノ故造誣告シタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條

若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル、者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若
クハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ
治ムルヲ中止シ以テ事案ノ決ヲ候テ其ノ被告人罪ニ坐スル時ハ
讒毀ノ罪ヲ論セス

若シ事刑法ニ觸レヌノ單ヘニ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ讒毀スルノ後
官ニ告發スト雖モ仍ホ讒毀ノ罪ヲ治ム

第八條

凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民自ラ告ルヲ待
テ乃チ論ス

〔第百拾壹號布告〕同

明治六年^{十月}第三百五拾貳號ヲ以テ布告候新聞紙條目被廢更ニ別冊ノ
通被定候條此旨布告候事

新聞紙條例

第一條

凡ソ新聞紙及時々ニ刷出スル雜誌雜報ヲ發行セントスル者ハ持主
若クハ社主ヨリ其ノ府縣廳ヲ經由シテ願書ヲ内務省ニ捧ケ允准ヲ
得ベシ允准ヲ得ズメ發行スル者ハ法司ニ付シ罪ヲ論シ凡ソ條例ニ
違フ者ハ府
縣廳ヨリ地方ノ法發行ヲ禁止シ持主若クハ社主及編輯人印刷人各
司ニ付シ罪ヲ論ス罰金百圓ヲ科ス其ノ詐テ官准ノ名ヲ冒ス者ハ各罰金百圓以上二百
圓以下ヲ科シ更ニ印刷器ヲ沒入ス

第二條

願書ニ擧クヘキノ目左ノ如シ

- 一 紙若クハ書ノ題號
- 二 刷行ノ定期毎日毎週毎月或
ハ無定期ノ類
- 三 持主ノ姓名住所○會社ナレハ差金人ヲ除クノ外社主一人若

クハ數人ノ姓名住所

四 編輯人ノ姓名住所○編輯人數人アル者ハ編輯人長一人ノ姓名住所

五 印刷人ノ姓名住所○編輯人自ラ印刷人ヲ兼ル者ハ其由ヲ著ス

右ノ五目中詐謬アル者ハ發行ヲ禁止若クハ停止シ時日ヲ限り發行ヲ止ムル者ヲ停止ト仍ホ願人ニ向テ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科ス

第三條

編輯人若クハ編輯人長退任シ若クハ死去スル時ハ假ニ編輯人若クハ編輯人長ヲ定メ刷行スルコトヲ得但シ遅クモ十五日内ニ退任死去ノ翌日ヨリ起算新定セル編輯人若クハ編輯人長ノ姓名住所ヲ持主若クハ社主

ヨリ其府縣廳ニ届ケ出ヘシ若シ期限内ニ届ケ出サル時ハ發行ヲ停止シ持主若クハ社主罰金百圓ヲ科ス

其他第二條願書ニ載スヘキノ日ニ於テ一ノ變更アル時ハ遅クモ十五日内ニ持主若クハ社主及編輯人若クハ編輯人長ノ連名ヲ以テ届ケ出ヘシ若シ期限内ニ届ケ出サル時ハ持主若クハ社主及編輯人若クハ編輯人長各々罰金百圓ヲ科ス

第四條

持主若クハ社主及編輯人若クハ假ノ編輯人タル者ハ内國人ニ限ルヘシ

第五條

持主若クハ社主自ラ編輯人若クハ編輯人長タルコトヲ得

第六條

編輯人二人以上アル者ハ、其一人ヲ撰テ編輯人長トスベシ
每紙每卷ノ尾ニ編輯人印刷人名ヲ署シ、編輯人數人アル者ハ、編輯
人長、名ヲ署シ、編輯人若クハ編輯人長、疾病事故アル時ハ、代理人ヲ
定メ其名ヲ署スヘシ、若シ名ヲ署セザル時ハ、編輯人若クハ編輯人
長、若クハ代理人罰金百圓以上五百圓以下ヲ科シ、印刷人罰金百圓ヲ
科ス
紙中若クハ卷中載スル所ノ事ニ付テハ、紙尾署名ノ編輯人若クハ編
輯人長一切責ニ任スベシ

第七條

紙中若クハ卷中載スル所第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ
犯シタル時ハ、編輯人首ヲ以テ論シ、筆者ハ從テ以テ論ス、持主若ク
ハ社主情ヲ知ル者ハ、編輯署名ノ人ト同ク論ス

第八條

新聞紙及雜誌雜報ノ筆者ハ、投書者ハ筆者尋常ノ瑣事ヲ除クノ外凡
ソ内外國事、理財、人情、時態、學術、法教議論及事官民ノ權利ニ係ル
者ハ皆其ノ姓名住所ヲ蓄スヘシ

筆者、變名ヲ用ヒタル時ハ、禁獄三十日罰金十圓ヲ科ス、他人ノ名ヲ
假托スル者ハ、禁獄七十日罰金二十圓ヲ科ス、二罰并セ科シ或ハ偏ヘ
ニ一罰ヲ科ス以下之ニ
倣

第九條

外國新聞紙及雜誌雜報ヲ翻譯ノ記入スル者ハ、尋常ノ瑣事ヲ除クノ外

譯者名ヲ署シ其事第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタル時ハ譯者其責ニ任スヘキコ第七條筆者從テ以テ論スルノ例ニ依ル

第十條

事犯編輯人ニ止リ禁獄ヲ命シタル時ハ特ニ發行ヲ停止シタル時ヲ除クノ外持主若クハ社主ヨリ假ニ編輯人ヲ定メ若クハ新タニ編輯人ヲ定メテ仍ホ發行スルコトヲ得其ノ編輯人ヲ定メスシテ發行スル者ハ發行ヲ停止スヘシ

第十一條

新聞紙若クハ雜誌雜報ニ指名サレタル官署會社若クハ人民ヨリ辨白書若クハ改正ヲ求ムルノ書ヲ寄スルキハ其書ヲ受取リシヨリ直チニ其次號ニ刷出スヘシ違フ者ハ編輯人罰金十圓以上百圓以下ヲ科ス

第十二條

新聞紙若クハ雜誌雜報ニ於テ人ヲ教唆ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ犯ス者ト同罪其教唆ニ止マル者ハ禁獄五日以上三年以下罰金十圓以上五百圓以下ヲ科ス

其教唆シテ兇衆ヲ煽起シ或ハ官ニ強逼セシメタル者ハ犯ス者ノ首ト同ク論ス其教唆ニ止マル者ハ罪前ニ同シ

第十三條

政府ヲ變壞シ國家ヲ顛覆スルノ論ヲ載セ騷亂ヲ煽起セントスル者ハ禁獄一年以上三年ニ至ル迄ヲ科ス其實犯ニ至ル者ハ首犯ト同ク論ス

第十四條

成法ヲ誹毀ノ國民法ニ遵フノ義ヲ亂リ及顯ハニ刑律ニ觸レタルノ
罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ禁獄一月以上一年以下罰金五圓以
上百圓以下ヲ科ス

第十五條

裁判所ノ斷獄下調ニ係リ未タ公判ニ付セザル者ヲ載スルコトヲ得ズ
及裁判官審判ノ議事ヲ載スルコトヲ得ス犯ス者ハ禁獄一月以上一年
以下罰金百圓以上五百圓以下ヲ科ス

第十六條

院省使廳ノ許可ヲ經ズシテ上書建白ヲ載スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰
前條ニ同シ

附則

此ノ條例布告ノ前ニ己ニ允准ヲ得テ發行セル新聞紙雜誌雜報ハ新
タニ願書ヲ捧クルニ及ハズ但シ府縣廳ヲ經由ノ內務省ニ届クル爲
ニ此ノ布告ヲ承ルヨリ第十日迄ニ 布告ヲ承ルノ翌日ヨリ起算ス 府縣廳ニ向テ第
二條五日ノ屆書ヲ捧クヘシ第十日ヲ過テ屆書ヲ捧ケザル者ハ府縣
廳ヨリ發行ヲ止ムベシ其ノ更ニ願ヒ出ル者ハ第一條ニ依ルヘシ
從前編輯人數人アリテ編輯人長ナキ者ハ條例布告ヲ承ルヨリ第二
日迄ニ 布告ヲ承ルノ翌日ヨリ起算ス 編輯人長ヲ定メ若クハ假ニ定ムヘシ第二日
ヲ過テ刷行シタル紙若クハ書ニ編輯人長ノ署名ナキハ府縣廳ヨ
リ發行ヲ止ムベシ其ノ更ニ願ヒ出ル者ハ前ニ同シ

〔第一百拾貳號布告〕同

文部省管理衛生准刻二項ノ事務内務省へ管理被 仰付候條右ニ關ス
ル願同等ハ從前規則ノ通相心得自今内務省へ可差出此旨布告候事

〔第一百拾壹號達書〕同 使 府 縣

今般銃砲彈藥取締ノ儀内務省へ管理被仰付候ニ付テハ追テ相達候儀
モ可有之候得共差向キ從前規則ノ通相心得取締可致尤右規則中是迄
陸軍省及ヒ各鎮臺等へ申出候分ハ總テ内務省へ可申出其他管理替ニ
付抵觸ノケ條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相達候事

〔第一百拾貳號達書〕同 院 省 使 廳 府 縣

工部省中營繕局被置候條此旨相達候事

〔達書〕 工 部 省

其省中營繕局被置候條此旨相達候事

○ 内 務 省

司法省伺山梨裁判所建築ニ付同縣下錦町四番官有地ノ内千三百五拾
坪同省官用地トシテ受取度旨聞届候條成規ノ通渡方可取計此旨相達
候事

○ 大 藏 省

司法省伺山梨裁判所建築ニ付同縣下錦町四番官有地ノ内千三百五拾
坪同省官用地トシテ請取度旨聞届候條此旨爲心得相達候事

○ 神 奈 川 縣

行政警察規則本年第貳拾九號ヲ以テ相達候付テハ其縣邏卒正權總長
檢官部長被廢候條此旨相達候事

百九 百十 百十一 百十二

依願免本官並兼官

天濤大丞兼 熊谷 武五郎

依願免兩出仕

記錄寮七等出仕兼 大藏省七等出仕 吉田次郎

補工部省六等出仕

製作助 從六位 高石 和道

兼任五等判事

堺縣令 從五位 稅所 篤

同

島根縣令 從五位 井關 盛良

依願免本官 但位記返上

五等判事 沼間 守一

太政官日誌明治八年第八十五號

○六月二十九日

〔第一百拾三號布告〕輪廓附

改定律例第四條左ノ通増加候條此旨布告候事

第四條 増加

凡上告シテ破毀ヲ得タル罪犯其懲役ノ年日數ハ原裁判言渡ノ日ヨリ起算シ獄舍勾置若クハ便宜監護ノ日數モ懲役限内ニ算入ス勾置監護ノ日數本罪ニ過ル者ハ直ニ放免ス其上告ノ不當ナル者ハ裁判言渡ヨリ上告ニ至ル迄ノ時間及ヒ勾置監護ノ日數ヲ限内ニ算入スルコト得ス若シ檢事ノ上告ニ係レハ不當ナル者ト雖モ仍ホ限内ニ算入ス

〔第百拾三號達書〕同

府

縣

本年三月第三拾六號ヲ以相達候經費豫算ノ儀ハ追テ確定ノ上可相達候條右費額相達候迄ハ從前ノ通可相心得尤差向七月一日以後經費仕拂ノ儀ハ前號達經費概目ニ照準區分可致此旨相達候事

但即今大藏省ヨリ相渡候經費ハ追テ本文費額確定ノ上差繼候儀ト可相心得事

○六月三十日

午後第一時三十分露西亞國海軍總督以下同國辨理公使同伴同第二時西班牙國代理公使同二時三十分佛朗西國水師提督以下同國臨時代理公使同伴 內廷ニ於テ謁見アリ其式畧之 是日官中ニ於テ節折 神殿前ニ於テ大祓ノ式行ハセラル其式畧之

〔第百拾四號達書〕輪廓附院 省 使 廳 府 縣

各廳雇出仕等日給ノ者是迄一六并祝日祭日其他一般休暇日ニ其給額ヲ與ヘ或ハ不與等一定無之候處本年七月一日ヨリ以後ハ日數ヲ限リ雇入ノ者又ハ諸職人等ヲ除クノ外ハ都テ右休暇日ト雖モ給額可相渡此旨相達候事

○本月二日分

叙從七位

北島

信厚

○本月十五日分

兼任七等判事

青森縣七等出仕飯田恆男

○本月十六日分

叙從七位

大塚

敬

○本月十七日分

兼任七等判事。

大分縣權參
事正七位 小原 正朝

○本月十八日分

叙從七位

木原 義實

○本月二十一日分

叙從七位

澁谷 彦一郎

同

岡村 信秀

○本月二十三日分

兼任七等判事

節磨縣七等出仕加藤治幹

○本月二十八日分

兼任五等判事

大分縣令
從五位 森下 景端

太政官日誌明治八年第八十六號

○七月二日

(第百拾四號布告) 輪廓附

明治七年^{十一月}第百貳拾號布告地所名稱區別ノ内官有地第二種及ヒ民
有地第三種ノ條左ノ通改正候條此旨布告候事

官有地

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス區入費ヲ賦スルヲ法トス

尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘ

民有地

第三種 地券ヲ發シテ地租區入費ヲ賦セサルヲ法トス

一 官有ニアラサル郷村社地及ヒ墳墓地等ヲ云

(第百拾五號達書) 輪廓附院 省 使 廳 府 縣

出納金穀概計ノ儀ニ付本年院令使廳ハ五月十八日ヲ以テ相違候順序

ノ内經費小科目ノ儀ハ明治八年府縣ハ三月第三十六號八月七月ヨリニ限り流用差許候條其

他ハ總テ最前相違候通可心得此旨相違候事

(第百拾六號達書) 院 省 使 廳 府 縣

來ル五日元老院開院式被爲行候ニ付本日午前第十時 臨御被 仰出

候條此旨相違候事

(第百十七號達書) 院 省 使 廳 東京府

來ル五日元老院開院式被爲行候ニ付正院休暇候條此旨爲心得相違候

事

(達書) 陸 軍 省

來ル五日元老院開院 臨御中儀仗及ヒ守衛トシテ歩兵一大隊同所へ

可差出此旨相違候事

但諸事式部寮へ可打合事

任議官

二品親王 有栖川 熾仁

同

正四位 壬生 基修

同

特命全權公 柳原 前光

同

式部寮五等出仕兼 大給 恒

同

從四位 秋月 種樹

同 同 同 同

同 佐々木 高行

同 齋藤 利行

教部少輔 正五位 黒田 清綱

辨理公使 正五位 佐野 常民

太政官日誌明治八年第八十七號

○七月三日

〔達書〕

陸軍會計軍吏補武内時鐵

舊木更津縣以來施行ノ背兒法資本トシテ金六圓五拾錢差出候段奇特ニ候事

○ 修史局御用掛五弓豐太郎

自撰ノ神史教部省へ献納候段奇特ノ事ニ候仍テ爲其賞別紙目錄ノ通下賜候事 目錄金貳拾五圓

○

兼任五等判事

白川縣權令 正六位 安岡 良亮

叙從五位

正六位 大山 重

叙正六位

永山 盛弘

叙從六位

永山 武四郎

叙正七位

門松 經文

同

家村 住義

叙正八位

益滿 邦介

同

神中 義次

同

水山 烈

同

稻葉 正輝

同

菊澤血波之輔

○七月四日

〔達書〕

元老院

議官席次ノ儀ハ叙位ノ前後ヲ以テ相立候處皇族ノ議官ニ被任候者ハ
議官ノ上席タルヘク候此旨相達候事

兼任五等判事

鹿兒島縣令 大山 綱良
從五位

○七月五日 元老院開院式
= 付正院休暇

元老院開院式

本日開院ニ付該院并内外史式部寮官員大禮服着用同院へ先着ス○午
前第九時三十分

天皇御出門鹵簿恒例ノ如シ○午前第九時皇族大臣參議及ヒ院省使廳
東京府長官次官大禮服着用同院へ先着ス
本式ハ百官參着スヘキノ處
御場所狹隘ニ付本文ノ如シ

○儀仗兵并樂隊整列ス○ 臨幸ノ報知ヲ得テ皇族大臣及諸官員奉迎

ス○通御ノ節儀仗兵敬禮ヲ行フ○樂隊樂ヲ奏ス○使殿ニ着御○式部ノ官員副議長議官書記官ヲシテ席ニ列セシム○式部ノ官員諸官員ヲシテ席ニ列セシム○式部頭出御ノ事ヲ奉請ス○出御式部頭先導朝儀ヲ引ク皇族大臣參議宮内卿輔侍從長扈從ス此時諸官員敬禮ス○御着床扈從ノ諸員其席ニ分列ス圖ノ如シ圖式略之○立御勅語アリ

本日朕爰ニ親臨シテ始テ本院ヲ開キ爾衆議官ニ詔ク朕前日衆庶ニ告クルニ元老院ヲ設ケテ立法ノ源ヲ廣ムルノ旨ヲ以テシ乃ハ千爾衆議官ヲ以テ立法ノ官タラシム尙クハ爾等各乃ノ心カヲ一ニシ乃ノ職任ヲ盡シ允ニ上下ノ康福ヲ圖ラハ實ニ國家無疆ノ休ナリ欽テ斯意ヲ體シテ其能ク贊襄セヨ

副議長議官書記官敬禮ス○副議長ヲ召シ勅語ノ書付ヲ授ケ給フ副議長

長拜受敬禮シ復席ス明日勅答書副議長ヨリ奏聞ス○入御此時諸官員敬禮○還

幸諸官員奉送奏樂○諸官員退散

○七月七日

本日午前第九時副議長大禮服着用 皇居へ參上○御學問所 出御○

副議長御前ニ進ミ奉答ス

陛下本院ニ親臨シテ開院ノ式ヲ行ヒ且ツ詰ルニ 聖意ノ向フ所ヲ以テス臣等謹テ 聖意ヲ奉體シ黽勉從事シ將ニ以テ上下ノ康福ヲ圖ラントス伏シテ奉答ス

明治八年七月七日

副議長
議官

奉答書ヲ

主上ニ奉リ直ニ退ク○ 入御

〔第百拾五號布告〕 輪廓附

明治五年^{十一月} 第三百三拾號布告牛馬賣買規則中第四條但書左ノ通改

正候條來明治九年ヨリ施行可致此旨布告候事

牛馬賣買規則

第四條

一 免許鑑札云々

但右税金ハ毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳へ取立租稅寮へ
上納可致尤新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事

〔第百拾八號達書〕 輪廓附院 省 使

明治七年^{三月} 第三號諸官員へ宿代賜方達但書中官舎不貸渡候テハ差支

候場所ニ限リ其時々内務省へ^{同年二月第十七號達ヲ以テ大藏ヲ内務ニ改ム}可申出ト有之候

處院省使ハ正院へ可伺出義ト可心得此旨相達候事

〔第百拾九號達書〕 輪廓附院 省 使 廳 府 縣

凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私
ニ一切ノ政務ヲ叙述スルヲ不相成候條此旨相達候事

但百般學科ニ係ル叙述ハ此限ニアラス

〔達書〕 從五位 大久保 忠良

隱居被 聞食候事

○ 從五位 大久保 忠禮

再相續被 仰付候事

○

百廿四

補七等出仕

山崎 直胤

任少書記官

正六位 北垣 國道

補內務省五等出仕

內務省六等出仕坂部長照

補內務省六等出仕

內務省七等出仕正七位 岡田 好樹

同

內務省七等出仕從七位 池田 寬治

同

內務省七等出仕岡谷繁實

補陸軍省七等出仕

大久保 春野

同

石九 三七郎

任七等判事

一級判事補小島 充均

同

大脇 彌教

同

三村 親始

同

大塚 重遠

同

水野 千波

同

桑原 廉甫

同

小林 藹

同

後藤 廣貞

同

春木 義彰

叙正八位

片山 正雄

同

小倉 忠明

同

伊東 祐清

太政官日誌明治八年第八十八號

○七月八日

〔第百貳拾號達書〕輪廓附府。

縣

從來夫米夫錢堤銀等左ニ掲載ノ名唱ヲ以テ特ニ治水修路ノ爲メ從前
取入致シ來候物及ヒ之ニ類似ノ分トモ總テ相廢シ各府縣限適宜賦課
法相立可申尤官費ノ分ハ從前ノ例規ニ隨ヒ不增加樣處分可致此旨相
達候事

夫米

壹歩米

夫金

堤防費
用米

大川定格
夫錢

郡中割金

郷役米

堤防其他
營繕米

八月
百廿五
三ノ年
州條

土木金

土工米

役米川役米
郷役修補米

橋々料米

夫役米

欠米

隄銀

七厘米

竈役米

〔達書〕

内務省

三瀨縣下筑後國御井郡第四大區十小區篠山町山村葆光外貳人私有地
七拾八坪電信分局敷地トシテ工部省ニ於テ買上ノ儀聞届候條官有地
第二種ニ組入同省へ渡方可取計此旨相達候事

大藏省

三瀨縣下筑後國御井郡第四大區十小區篠山町山村葆光外貳人私有地
七拾八坪電信分局敷地トシテ工部省ニ於テ買上ノ儀聞届候條官有地
第二種ニ組入同省へ渡方可取計此旨相達候條官有地

内務省

埼玉縣下行田區裁判所敷地三百五拾壹坪官有地第二種官用地ニ組入
司法省へ引渡方可取計此旨相達候事

大藏省

埼玉縣下行田區裁判所敷地三百五拾壹坪官有地第二種官用地ニ組入
司法省へ引渡方可取計此旨相達候條此旨可相心得事

内務省

先年在維也納我國博覽會事務局ヨリ學國政府へ贈品ノ答謝トシテ同

國百工職業模範書製造工匠產物規範書并ニ百工博物館職業物品寫真
百五拾箇獨乙國務卿フオンビエロウ氏ヨリ青木全權公使へ宛差越候
旨ヲ以外務省ヨリ差出候ニ付其省へ下附候條博物館へ可備置此旨相
達候事

○ 司法省四等出仕鶴田 皓

法制局御用掛兼勤被 仰付候事

文部省八等出仕伊澤修二

○ 各通 同 高嶺 秀夫

同 神津 專三郎

師範學科取調之爲メ米國へ差遣候事

文部省八等出仕目賀田種太郎

留學生監督ノ爲メ米國へ差遣候事

○ 補五等出仕 六等出仕 井上 毅
正七位

同 權大書記官古澤 滋

叙正八位 井上 正也

同 宮井 定之助

○ 七月三日分

〔達書〕 參議 伊藤 博文

法制局長官被 仰付候事

○ 叙正八位 明澤 弘和

同 同

○七月四日分

任七等判事

高橋 智久

山崎 親俊

堀 真五郎

太政官日誌明治八年第八十九號

○七月九日

〔達書〕

大藏省

皇國地誌編輯例則並ニ着手方法別紙之通使府縣へ相達候條此旨可心得事
別紙ハ本年第九拾七號達書ナリ略之

○ 同 省

三菱會社へ委托候其省所轄ノ汽船今般更ニ内務省所轄ニ被定候條同省へ可引渡此旨相達候事

○ 陸軍省

内外人民着帽差傘ノ儘諸御門通行不苦候條其向へ達方可取計此旨相達候事

百廿九

叙正八位

猪野 忠敬

同

石島 敬儀

同

渡部 之

〔大藏省届書〕略

太政官民部省金札大藏省開拓使發行兌換證券並舊藩札等本年五月廿二日ヨリ六月十四日迄第五大區四小區神田佐久間町舊燒却場ニ於テ別紙之通糞潰相濟候此段上申候也

本年五月廿二日ヨリ同六月十四日迄糞潰高

一太政官札百四拾四萬五千六拾八兩三分貳朱

一民部省札拾三萬八千七百拾三兩壹分壹朱

一大藏省發行兌換證券百六拾萬貳千五百五拾五圓

一開拓使發行兌換證券貳拾九萬九千六百九拾貳圓六拾錢

一舊藩札七拾貳萬千百六拾三枚

此新貨七萬八千三百五拾四圓六拾四錢貳厘

合金三百五拾六萬四千三百八拾四圓四拾貳錢九厘五毛

○七月二日分

兼任五等判事

飾磨縣權令 森岡 昌純

任六等判事

茨城縣參事 關 新平

兼任六等判事

宮崎縣參事 福山 健偉

兼補權少教正

安房神社少宮 早尾 海雄

叙正八位

畑中 重遠

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

中山 正誼
小林 千和岐
安東 義則
淺井 親政
田中 元朝
高木 良則
吉田 丈治
松本 直正
菅野 尚喬
山岡 光行
福田 篤敬

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

羽山 蟻
內田 莊次郎
武田 省三郎
田中 仲稻
佐藤 常政
奈古 正光
濱田 謙藏
竹田 勝定
荒尾 成之
田島 義則
中島 良寛

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

河村 辰彦

山崎 茂樹

中村 正良

早川 升

川俣 佳辰

成田 頼次

後藤 義文

東郷 實教

高坂 静好

藤山 重發

郷 定安

中山 久亨

松原 敬太

○七月六日分

叙正八位

同

福家 安定

田淵 義氏

大政官日誌明治八年第九十號

○七月十日

〔第百貳拾壹號達書〕輪廓附府

縣

篤行及ヒ奇特者賞與ノ儀ハ都テ其時々伺ヲ經施行ノ事ニ候處以來左ノ條例ニ照準賞與取計月末ニ取束事由及ヒ金員等詳細内務省へ可届出此旨相達候事

常例

一一等賞

金五圓ヨリ不多三圓ヨリ不少

但篤行郡邑ニ秀テ衆人之ヲ稱譽シ又孝子貞婦義僕ノ如キハ凡二十年以上志操ヲ變セズ能ク其道ヲ盡セシ者ノ賞トス尤

右年數以內ト雖モ他ニ比類ナキ志行アルモノハ此例ニ準ス

一二等賞

金二圓五十錢ヨリ不多壹圓五拾錢ヨリ不少

但篤行郷閭ニ顯レ郷黨之ヲ稱譽シ又孝子貞婦義僕ノ如キハ凡十年以上志操ヲ變セス能ク其道ヲ盡セシ者ノ賞トス尤右年數以內ト雖モ志行他ニ稀ナル者ハ此例ニ準ス

一三等賞

金一圓ヨリ不多五十錢ヨリ不少

但篤行近隣ニ聞ヘ親戚朋友之ヲ稱譽シ又孝子貞婦義僕ノ如キハ凡五年以上志操ヲ變セス能ク其道ヲ盡セシ者ノ賞トス尤右年數以內ト雖モ志行格別ナル者ハ此例ニ準ス

右ノ金高ヲ以制限スト雖モ其行狀絶類ニシテ此規程ニ難照準程ノ見込アル者ハ内務省ヘ可伺出事

學校病院其他道路橋梁及濟貧恤窮等ノ費用ヲ差出候者ノ内勅奏任官及華族ヲ除之外出金高四千圓未滿之分ハ左ノ賞例ニ照シ夫々處分可致尤盃ハ追テ可下渡旨達置金高詳記速ニ内務省ヘ申出其品送致ヲ請フヘシ且金高拾圓未滿ノ分ハ褒詞取計置人名并金員トモ月未ニ取束詳細同省ヘ可届出事

但出金高四千圓以上ノ分ハ其都度内務省ヘ可伺出事

賞盃規則

金高拾圓以上七十圓未滿

木盃 壹個

但金高拾圓毎ニ品格等差アリ

同七拾圓以上百圓未滿

同 三ッ組

但前同斷

同百圓以上八百圓未滿

銀盃 壹個

但金高百圓毎ニ品格等差アリ

同八百圓以上千圓未滿

同 三ッ組

但前同斷

同千圓以上四千圓未滿

同 同

但金高千圓毎ニ品格等差アリ

〔達書〕

内

務

省

東京達式註違條例第三十條并地方達式註違條例第四十四條但書左ノ
通改正可致此旨相達候事

但各地方ニ於テ達式註違條例現今施行ノ向ヘハ其省ヨリ可相達事
夜中無提灯云々

但陸海軍ノ諸兵非常ノ警戒アル時ハ勿論平日隊伍ヲ組夜陰行進
及定制アル徽章ノ服帽着用ノ節ハ單騎ト雖モ此限ニ非ス

○

同

省

千葉裁判所敷地トシテ同所字茶屋跡民有地貳千七百四拾七坪五合六
勺司法省ニ於テ買上ノ儀聞届候條右地所組入方成規ノ通可取計此旨
相達候事

○

任權少内史

七等出仕 林

直庸

補七等出仕

大主記 大熊

敦義

同

同 股野

琢

兼補勸業寮四等出仕

兼製作頭
如故

工学權頭兼製
作頭從五位 大鳥

圭介

叙正八位

倉橋 銳三郎

○六月三日分

兼補權少教正

同蘇神社宮
司兼大講義 阿蘇

惟敦

○六月十二日分

叙從七位

松本 利器

○六月十八日分

兼任七等判事

白川縣權參
事正七位 小關

敬直

○六月二十日分

兼任七等判事

宮崎縣權參
事正七位 上村

行徵

同

鹿兒島縣權
參事正七位 田畑

常秋

○六月二十八日分

依願免本官

陸軍少尉 水島 純

兼任五等判事

山口縣令
從五位 中野 梧一

太政官日誌明治八年第九十一號

○七月十二日

〔第百貳拾貳號達書〕輪廓附府

縣

縣治條例中窮民一時救助規則ノ儀本年八月十日ヨリ廢シ候條同日ヨリ左ノ規則ニ據リ處分可致此旨相達候事

窮民一時救助規則

第一條

- 一 水火風震ノ難ニ逢ヒ家産蕩盡流失シ目下凍餒ニ迫ル者ハ男一人一日玄米三合麥ハ六合雜穀九合但七十歲以上十女一人一日玄米五歲以下ハ女ノ割合ヲ以テ給ス
- 二 合ノ穀ハ六合積リヲ以テ十五日分速ニ救助スヘシ但身元可ナリノ者ハ此例ニ入ルヲ許サズ

第二條

一同斷自ラ小屋掛ケヲ營ム能ハサル者一戸金五圓充五ヶ年賦返納ノ積ニテ貸渡スヘシ
假令ハ明治八年七月一日ヨリ十二月三十一日迄ハ其年明治八年七月ヨリ同九年六月迄ヲ云
同九年七月ヨリ同九年七月ヨリ
同十年六月ヨリ返納ノ積
其災一等輕キハ一戸金三圓充前同

樣貸渡スヘシ尤借家住居或ハ同居ノ者ハ此限ニ非ス

第三條

一同斷農具差支ノ者ヘハ鋤鎌馬鋤稻扱肥桶等其土地相當ノ價取調代金貸渡ス一前條ノ例ノ如クスヘシ但多キモ一戸十圓ヲ踰ユ可ラス

第四條

一流行病ニ罹リ目下飢餓ニ迫ル者アラハ第一條ノ例ニ處シテ後其事情ヲ具シ速ニ内務省ヘ届出ヘシ

第五條

一連村連市一時ニ暴災ニ罹リ目下窮困ニ迫ル者十日以内ハ焚出米ヲ給與シ其災害ノ景況ニ因リ假ニ小屋掛ヲ營ミ一時ノ急ヲ救フ
一適宜タルヘシ
一トトヘハ洪水ニテ數村一面水湛ヘ家屋ハ流亡シ人畜ハ死傷スル等ノ如キ暴災ニハ假ニ小屋掛ヲ營ミ
一焚出米ヲ與
一ツルノ類

以上ノ諸件ハ伺出ニ不及豫備金ノ内ヲ以テ速ニ施行シ其時々詳悉内務省ヘ可届出ハ勿論罹災ノ月日金員等無遺漏可記載但金員受取方ノ儀ハ兼テ布達ノ通三ヶ月分宛取束大藏省ヘ申出ヘシ

第六條

一天災地變ニテ夫食種糶貸渡ノ事

第七條

一耕牛馬非常ノ災變ニ斃レ代價拜借ノ事

以上ノ二件ハ其時々事狀ヲ審具シ内務省へ經伺ノ上施行ス

ヘシ

附錄

救助米給與届ノ内譯左ノ雛形ノ通記載可致事

一合米何程

何月罹災ノ前月其所下米相場

此金何程

但米壹石ニ付金何程

内

所相場無之地ハ其最寄村町ノ下米相場ニ依リ下米相場無之地ハ上米相場ノ一割引トシ其旨ヲ記載スヘシ

一米何程

右ハ何年何月幾日何國何郡何村町何某始何人水火災流行病等

ニ付日數幾日ノ間男何人女何人内七十歲以上十五歲以下ノ男何人合何人へ爲

救助相渡候分

〔達書〕

内務省

鑛山寮生野支廳官宅地トシテ豐岡縣下生野口銀谷町字四丁目ニテ民

有地千貳拾六坪七合同畑地貳拾步工部省ニテ買上ノ儀聞届候條右地

所同省官用地ニ組入方可取計此旨相達候事

○

大藏省

鑛山寮生野支廳官宅地トシテ豐岡縣下生野口銀谷町字四丁目ニテ民

有地千貳拾六坪七合同畑地貳拾步工部省ニテ買上ノ儀聞届候條右地

所同省官用地ニ組入方可取計様内務省へ相達候條此旨可相心得事

○ 同 省

舊蕃地事務局殘務於其省整理可致此旨相達候事

任權大書記官

正六位 永井 尙志

任租稅助

租稅權助 從六位 立田 彰信

補租稅寮七等出仕

租稅大屬 中村 元雄

同

同 小林 好愛

任海軍中尉

海軍少尉 正八位 高松 稱

同

同 黑岡 帶刀

任海軍中軍醫

海軍少軍醫 正八位 酒井 泰賢

依願免出仕

文部省六等出仕秋山恒太郎

任茨城縣參事

記錄寮七等出仕本田 親英

○六月三十日分

兼任五等判事

三潞縣權令 正六位 岡村 義昌

叙正八位

下元 實俊

同

三宮 守崇

同

布施 善信

同

石本 權七

同

齋藤 利忠

同

都筑 孝成

太政官日誌明治八年第九十二號

○七月十三日

午後第二時英國副水師提督以下同國公使同伴同第三時丁抹國使節等

公廷ニ於テ 謁見式アリ 其式略之

〔達書〕

大藏省

正院於テ各種新聞紙ノ内必用ノ分購求候條爲心得此旨相達候事

○

司法省

巡回裁判ノ各地方ニ至ルハ一年兩次ノ定則ニ候へ共罪獄繁劇ノ地方ハ三次或ハ四次ニ至ルモ不苦右度數増加ノ儀ハ其省へ被任候條適宜ノ處分可致此旨相達候事

但東京大坂等格斷繁劇ノ地ハ猶例外處分見込相立可伺出事

○ 隱居被 聞食候事
家督被 仰付候事

正三位 平松 時言
從四位 平松 時厚

○ 任權少書記官

土方 左平

同

賀川 純一

依願免本官但位記返上

陸軍中尉 宮崎 有終

免本官但位記返上

同 新海 祚胤

同

燈臺權助 西牟田 豐綏

○ 七月十四日

〔第百拾六號布告〕 輪廓附

明治七年十月第百七號ヲ以テ株式取引及ヒ同年十二月第百三拾八號ヲ以テ米穀賣買相場取引等致度者ハ其管轄廳ヲ經テ大藏省ヘ可願出旨及布告置候處自今右ノ手續ヲ以テ内務省ヘ可願出此旨布告候事

但株式取引條例中第貳拾九條ヲ除ノ外大藏卿トアルハ内務卿國債頭トアルハ勸業頭ト可心得事

〔第百拾七號布告〕 同

本年五月第九拾五號布告改正新舊公債証書發行條例中第四條第壹節金額内譯合計表差出方毎年十月三十一日ヲ毎年十一月十日ニ改定候條此旨布告候事

〔第百貳拾三號達書〕 同 院 省 使 廳 府 縣

大審院順次ノ儀ハ開拓使ノ上諸省ノ次ニ被列候條此旨相達候事

百廿五 百廿六 百廿七

〔第百貳拾四號達書〕

府

縣

地方官會議期限本月十四日迄ノ處更ニ來ル十七日迄開院被 仰出候
條此旨相達候事

〔達書〕

地方官會議議長木戸孝允

同文

〔第百貳拾五號達書〕

輪廓附使

府

縣

士族以下家祿賞典祿奉還可聞届旨明治六年^{十二}月^{十二}第百貳拾五號ヲ以
テ及布告置候處詮議ノ次第有之奉還ノ儀當分差止候條此旨其向ヘ可
相達事

但此達書到達前既ニ願出候分ハ聞届不苦候事

〔達書〕

開

拓

使

賞與ノ儀別紙ノ通府縣ヘ相達候條其使ニ於テモ同様相心得賞益ハ内
務省ヨリ受取可申此旨相達候事 別紙ハ本年第百二十
一號達書ナリ略之

○

大

藏

省

賞與ノ儀別紙ノ通使府縣ヘ相達候條爲心得此旨相達候事 別紙
略之

○

依願免本官並兼職

神宮祭主
兼大教正

三條西 季知

○七月八日分

任議官

京都府知事
正三位

長谷 信篤

○七月九日分

任七等判事

一級判事補高鹽 又四郎

太政官日誌明治八年第九十三號

○七月十五日

〔第百貳拾六號達書〕

院・省・使・廳・府・縣

來十七日地方官會議終會式被爲行候ニ付午前第十時 臨御被 仰出
候條此旨相達候事

但當日傍聽人拜見被差許候事

〔第百貳拾七號達書〕

院・省・使・廳・東京府

來十七日地方官會議終會式被爲行候ニ付正院休暇候條此旨爲心得相
達候事

〔達書〕

陸・軍・省

來十七日地方官會議終會 臨御中儀仗守衛トシテ歩兵一大隊同所へ

可差出此旨相達候事

但諸事式部寮へ可打合事

○

同

省

有栖川一品宮御息所薨去ニ付葬式ノ節爲儀仗隊歩兵一大隊被差立候條來ル十八日午前第十一時三十分同宮邸へ參集可爲致此旨相達候事

○

陸軍少將 鳥尾 小彌太

御用有之大坂表出張被 仰付候事

○

任權少内史

正六位 宮島 誠一郎

補七等出仕

正七位 原 忠順

兼補中教正

神宮少宮司 浦田 長民

兼補少教正

皇太神宮禰宜 芳村 正秉

補少教正

權少教正 佐原 泰嶽

叙從五位

龜井 茲明

叙正八位

小幡 豐之助

○六月二十九日分

任陸軍少尉

坂本 行也

依願免本官

陸軍軍醫補大久保 常成

○六月三十日分

叙正八位

高並 連壽

同

佐脇 安之

同

三村 友藝

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

鎌田 政善
高橋 忠順
小守 庵
高橋 直重
花井 信
上田 政孝
畠山 國盈
大西 茂達
岡 忠順
渡部 當次
榑崎 時太郎

上村 晴説
石川 則致
加藤 俊為
寺倉 一貫
溝口 保壽
奥田 篤政
鮫島 宗城
甲斐 敬直
丸田 政固
風間 年長
山田 有稱

太政官日誌明治八年第九十四號

○七月十七日

本日地方官會議院終會式ニ付正院休暇

○七月十八日

(第百拾八號布告)

北海道石狩國札幌郡へ篠路驛ヲ置里程左ノ通候條此旨布告候事

札幌石狩ノ間宿驛里程

自札幌
至篠路 三里拾五町

自篠路
至石狩 三里貳拾壹町

(第百拾九號布告) 輪廓附

本年製造ノ蠶種免許印紙左ノ見本ノ通相定候條此旨布告候事 印紙見本略之

(達書) 内務省

諸會社管掌之儀ニ付本年六月二十七日指令之趣モ候處諸銀行ノ條例ヲ奉シテ其業ヲ營ム會社ノ分ハ大藏省ノ管掌ニ附セラレ候條此旨更ニ相達候事

○ 大藏省

士族家祿賞典祿奉還之儀ニ付別紙第百二十五號之通使府縣ハ相達候條此旨可相心得事 別紙第百二十五號達書ハ職テ前號日誌中ニアレハ之ヲ略ス

○ 開拓使

今般第百二十二號ヲ以窮民一時救助規則之儀府縣ハ相達候條爲心得

此旨相達候事

大坂府權知事渡邊 昇

神奈川縣令中島 信行

新潟縣令 楠本 正隆

各通 千葉縣令 柴原 和

山梨縣令 藤村 紫朗

山口縣令 中野 梧一

福岡縣令 渡邊 清

御用有之滯京被 仰付候事

○

補五等出仕兼内務省五等出仕 六等出仕從六位尾崎三郎

補統計寮六等出仕

六等出仕正七位大島貞益

免出仕 但位記返上之事

文部省七等出仕渡邊 温

○七月十九日

(達書)

大坂府

別紙陸軍省伺大坂鎮臺周圍ニ群集ノ鴉鴉狙撃之儀聞届候條爲心得此

旨相達候事 別紙略之

新潟縣

別紙陸軍省伺新發田兵營周圍ニ群集ノ鴉鴉狙撃ノ儀聞届候條爲心得

此旨相達候事 別紙略之

陸軍少將 井田 讓

陸軍省第四局長被 仰付候事

從五位 内藤 政義

府下第二大區四小區葺手町拾五番地内滑屋五戸之者共ニ金五圓施與

候段奇特ニ候事

任驛遞助

驛遞權助正七位真中忠直

補地理寮七等出仕

地理大屬 新藤 巖

任教部少丞

教部省六等出仕鈴木 魯

補教部省六等出仕

教部省七等出仕足立正聲

補教部省七等出仕

教部大錄從七位八木 雕

任三等侍醫

四等侍醫從五位岩佐 純

任四等侍醫

五等侍醫從六位林 洞海

任六等侍醫

一等藥劑生岩井

克俊

任岐阜縣權令

兼六等判事如故

岐阜縣參事

從六位小崎利準

任官崎縣權令

兼六等判事如故

宮崎縣參事

從六位福山健偉

太政官日誌明治八年第九十五號

○七月二十日

(達書)

陸軍省

今般渡來候丁林國大使陸軍練兵一覽之儀申出許可候條外務省へ打合日時等取極々執行可致此旨相達候事

○海軍省

今般渡來候丁林國大使橫須賀造船所一覽之儀申出候條外務省へ打合日時等取極々一覽可差許此旨相達候事

○從三位 難波 宗禮

隱居被 間食候事

○正五位 難波 宗明

家督被 仰付候事

任權大内史

大書記官從五位細川潤次郎

補六等出仕

七等出仕正七位櫻井能監

補國債寮七等出仕

記録寮七等出仕神山 聞

任陸軍二等軍醫正

足立 寛

任少警視

權少警視 國分 友諒

任京都府權知事

京都府參事正六位榎村正直

任鳥取縣權參事

正七位 吉田 信敬

免本官並兼官

豐岡縣參事 田中 光儀
兼六等判事

叙從七位

中隈 源四郎

同

山縣 久太郎

叙正八位

太田 一道

同

伊藤 克己

同

栗村 信武

○七月二十二日

(第百貳拾號布告) 輪廓附

諸商業又ハ諸職業ニテ各廳ヨリ用向被申付候者ヨリ差出候受書類ノ
中其事柄受負并約定筋ニ相涉リ候モノハ自今證券印稅規則第二則第
一條第二類諸證書中諸受負證文及ヒ金錢約定證文ニ照シ證券印紙界
紙可相用此旨布告候事

但本文同様ノ受書ニシテ金高記載セサル分ハ同規則中第三類金高